

組織の目標

多摩ニュータウン環境組合

事務局長:富澤 浩
職員数:19人(令和2年4月1日時点)

■ 組織の役割

- ①ごみ処理施設の設置及び運営に関すること
- ②廃棄物のごみ処理施設から最終処分場までの運搬に関すること

令和2年度

■ 組織の目標

多摩ニュータウン環境組合・多摩清掃工場の経営方針として定める「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」を目指し、安全で安定的な工場運営、将来を見据えた健全な組合経営、そして多摩清掃工場についての理解と地域連携をより一層推進することを多摩ニュータウン環境組合の目標とする。

■ 組織の取り組み方針

多摩ニュータウン環境組合は、以下の方針に基づき各々が仕事に取り組む。

- ①ごみをより安全で安定的に処理する。
- ②合理的で効率的に組合経営を行う。
- ③地元自治会や周辺事業所等と連携を進め、清掃工場運営への理解促進と協力体制を構築する。
- ④ごみ処理区域の再編手続きを着実に進める。

■ 具体的な取り組み

- 1 設備の老朽化に対応するため、劣化状況に合わせ長期修繕計画を見直し、効果的に機器補修工事を実施する。【施設課】
- 2 令和4年4月からのごみ処理区域再編に向け、組合格約改正等の手続きを進める。【総務課】
- 3 大気汚染防止法の規制対象である「水銀」を効果的、効率的に除去するための対策を進める。【施設課】
- 4 設備の故障や火災等の発生により工場の機能が停止した場合に、緊急的な他工場への搬出、一時的な保管など廃棄物の継続的な受け入れを確保するため「工場の緊急停止時対応計画」の策定を進める。【施設課】
- 5 清掃工場周辺地域の住民への情報提供、意見交換の場を充実させるためのしくみを構築する。【総務課】
- 6 当組合広報担当特別スタッフ(キャラクター)「タマちゃん」を活用した広報活動を行い、多摩清掃工場の活動を広く周知していくための取り組みを推進する。【総務課】

■ 内部改革の方向性

- 1 環境法令の遵守とともにISO14001に基づき、環境目的・環境目標を定め、その達成に取り組む。
- 2 安全衛生推進協議会、安全衛生委員会による「ゼロ災」を目指した取り組みを推進する。
- 3 「中期経営計画(ビジョン2022)」の取組内容の進捗や環境変化の状況等を鑑みた上で中間見直しを行う。

■組織の目標

多摩ニュータウン環境組合・多摩清掃工場の経営方針として定める「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」を目指し、安全で安定的な工場運営、将来を見据えた健全な組合経営、そして多摩清掃工場についての理解と地域連携をより一層推進することを多摩ニュータウン環境組合の目標とする。

■組織の取り組み方針

多摩ニュータウン環境組合は、以下の方針に基づき各々が仕事に取り組む。
 ①ごみをより安全で安定的に処理する。
 ②合理的で効率的に組合経営を行う。
 ③地元自治会や周辺事業所等と連携を進め、清掃工場運営への理解促進と協力体制を構築する。
 ④ごみ処理区域の再編について、市民の理解のもと構成市とともに手続きを進める。

■具体的な取り組み

(成果)

<p>1 工場、設備の劣化状況等を見極め長期修繕計画を見直し、効果的な機器補修工事を実施する。【施設課】</p>	<p>⇒ 前年度の工事報告書、現在の劣化状況等を勘案し、修繕計画を見直すことで、より効果的に補修工事が行え、施設の安定稼働のための対応を図ることができた。また省エネ機器の検討を行い、省エネポンプ更新計画を策定、長期修繕計画に加え、更新を行った。</p>
<p>2 焼却施設の機能維持のため検討を進めてきたごみ処理区域の再編を、地元住民の理解を得ながら進めていく。【総務課】 【施設課】</p>	<p>⇒ 清掃工場の周辺自治会毎に、区域再編の経過や再編区域についてあらためて説明し意見を伺った上で、情報交換会で区域再編の手続きを進めることを確認した。一連の取り組みにより、施設の安定、継続稼働が見込める状況となった。</p>
<p>3 大規模災害時においても焼却炉の停止などの影響を最小限に抑え、早期の復旧、継続的な清掃工場(焼却炉)の運転を確保するため「災害時対応計画」の策定作業を進める。【施設課】</p>	<p>⇒ 前年度に整理した検討事項をもとに、基本方針や運用、災害発生時の対応、処理を継続するための代替方法などを定める「災害時対応計画」を策定し、清掃工場が被災した際の、安全な早期復旧、継続稼働のための方策、手順が明らかになった。</p>
<p>4 新たな財源を確保し、資源化を促進するため、金、銀、銅等の貴金属が含まれている落じん灰を売却する新たな仕組みづくりのための環境整備を進める。【施設課】</p>	<p>⇒ 落じん灰を売却するために必要な設備や体制、売却先等を検討し、搬送設備を整備し、売却先を選定のため、落じん灰の売却を開始し、より一層の資源化が進み、新たな収入源、最終処分場への搬出量削減による経済効果も生み出すことができた。</p>
<p>5 平成30年に策定した「照明のLED化計画」に基づき、省エネルギー効果の高い照明のLED化を進める。【施設課】</p>	<p>⇒ 「照明のLED化計画」に基づき、焼却棟の炉室、ごみピット、灰ピットにある、消費電力が大きく、高い省エネルギー効果が見込める水銀灯などをLED照明に交換することで、効率的に環境負荷の低減を実現することができた。</p>
<p>6 清掃工場周辺地域の住民への情報提供、意見交換の場を充実させ、工場運営に対する理解促進を図り、工場運営に住民意見を反映させる。【総務課】</p>	<p>⇒ 地元報告会、情報交換会を実施するほか、「出前説明会」の要望にも積極的に応じ、情報提供や意見交換を行うことにより、工場運営への住民の理解促進を図ることとした。また、災害廃棄物応援処理の件など、必要に応じ各自治会個別に情報提供、事前相談を行い、理解を求めた。</p>
<p>7 多摩ニュータウン環境組合の活動、取組等の情報発信手段の一つとして、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用した手法を導入する。【総務課】</p>	<p>⇒ 新たな情報発信手段の取組みとして、当組合広報担当特別スタッフの「たまちゃん」をデザインとしたLINEスタンプを令和元年8月より販売開始し、清掃工場の認知度向上を図った。</p>

■内部改革の方向性

(成果)

<p>1 環境法令の遵守とともにISO14001に基づき、環境目的・環境目標を定め、その達成に取り組む。</p>	<p>⇒ 環境目標26項目のうち、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が延期となり、年度内に達成できなかった3項目以外は達成。審査機関による定期審査では、改善の余地の指摘は1件あったが不適合は検出されず有効性が確認された。EMS委員会12回開催。</p>
<p>2 安全衛生推進協議会、安全衛生委員会による事故ゼロを目指した取り組みを進める。</p>	<p>⇒ 安全衛生協議会4回、安全衛生委員会8回、計12回開催。安全衛生協議会パトロールを3回実施し事故発生予防に努めた。交通安全講習、メンタルヘルス講習、救命講習、熱中症予防対策講習を実施し職員の意識向上を図った。年間の事故ゼロを達成。</p>
<p>3 「中期経営計画(ビジョン2022)」の取り組み状況や契約状況など、事務事業についての説明を充実させる。</p>	<p>⇒ 「中期経営計画(ビジョン2022)」の進捗状況の評価や契約状況について、主要事務事業報告書に記載するとともに当組合ホームページにてその情報を公開し、情報を得る機会を拡大する取組みを行った。</p>